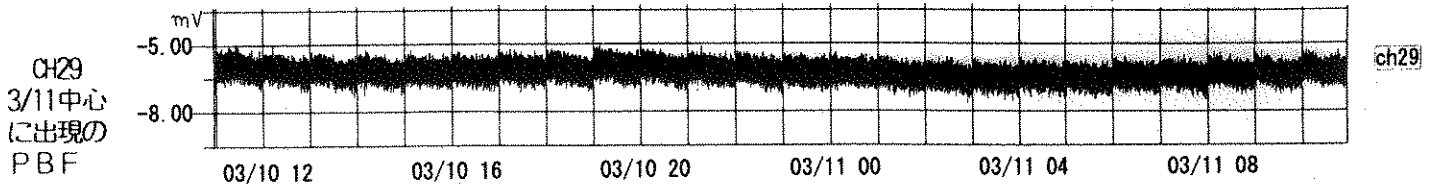


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期前兆 早い場合 3月23日±の可能性有
3月21日時点で前兆顕著継続の場合は4月以降



No.1778長期継続特殊前兆の続報です。

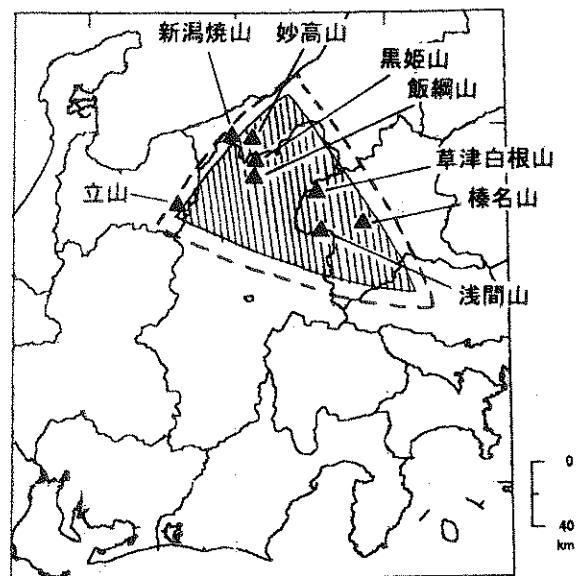
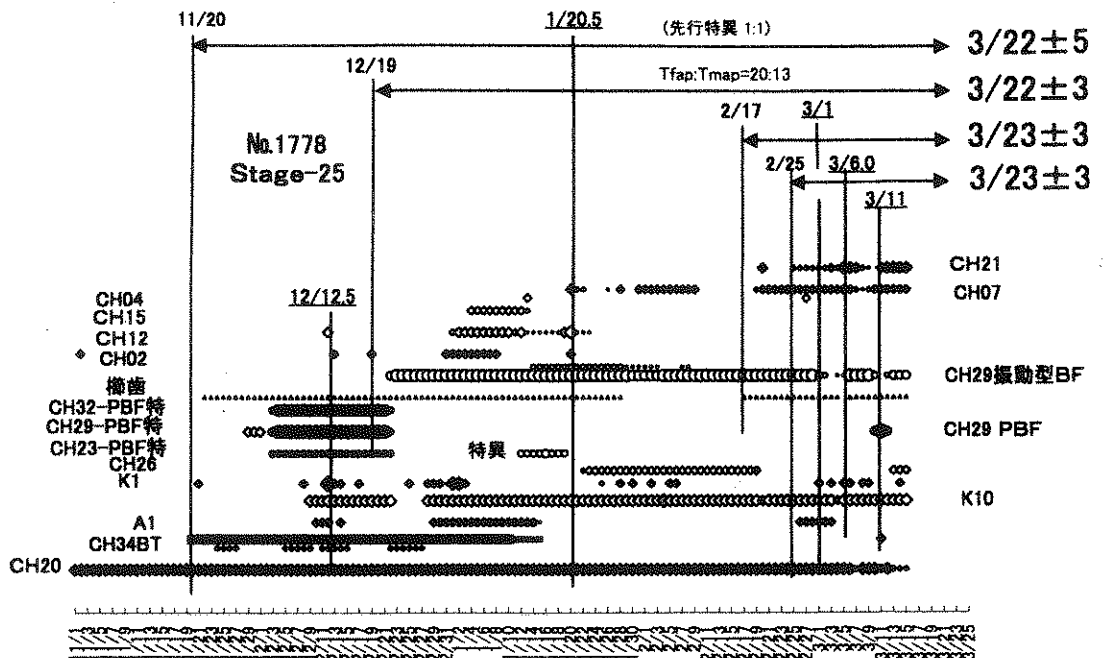
振動型BFが継続出現していたCH29に特異が出現したと前回報告致しましたが、受信機からの信号ケーブルのトラブルが原因で、特異状態では無いことが判りました。3/3に復旧した時点では振動型BFは無く、ほぼ正常基線に極めて微弱なPBF波形が見えていましたが、上波形のとおり3/11を中心に約48時間、明確なPBF連続BF地震前兆波形が出現致しました。

PBFは3/12昼頃に終息し、再び振動型BFが出現したして継続しています。但し変動値は小さくなっています。

最近までの前兆の動向から最も早い場合の可能性として3/23±2の可能性が否定はできません。これは03月初旬から、FAX 又はE-mailで日々観測情報を配信しております公開実験で配信公表しておりますが、本HPでは遅くなりました。お許し下さい。

02月下旬以降、複数の小極大が認められます。これらから仮に3/23±発生の場合は、3/20までは前兆が継続することが計算できます。

地殻地震で大規模な場合、余震が多数発生する関係から、前兆が完全に終息時期に終息せず、静穏期(Tpp)が明確に確認できないケースがあることは、以前にご報告したとおりです。同様に今回の推定規模もM8に近い大規模が推定されますため計算上の静穏期で前兆が全て終息する可能性は低いですが、静穏期に入っても、現在同様に顕著に前兆が継続している場合は発生時期の推定が誤っていることとなりますので、3/21以降も前兆が顕著に継続した場合は、その後の前兆変化を鑑み、発生時期を修正したいと考えます。現状、最も早い場合の可能性として3/23±の可能性も否定できないことをご報告させて頂きました。



- ◆推定領域: 上図 太線領域内=可能性考えやすい領域 斜線領域内=火山近傍で可能性高い推定領域
- ◆推定規模: M7.8±0.5 震源浅い陸地地殻地震 火山近傍領域の可能性有
- ◆推定時期: 前兆終息確認後推定予定 現状最も早い場合=3/23±2の可能性も有
- ◇推定発生時刻: 午前9時30分±1時間(又は午後4時±3時間)